

## 別記様式第2号

### 会議の概要報告

会議の名称	佐野市保育所整備運営計画策定委員会
1 開催日時	平成21年12月16日(水)13時30分～15時30分
2 開催場所	佐野市役所本庁舎第2会議室
3 委員等の人数	10人
4 出席委員等の人数	7人
5 議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 佐野市保育所整備運営計画 基本方針(案)について</li> <li>2 佐野市保育所施設整備計画 基本方針(案)について</li> <li>3 「次世代育成支援行動計画後期基本計画」との整合と目標事業量について</li> </ol>
6 会議の公開・非公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開・非公開の理由
7 傍聴者の数	0人
8 会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所利用保護者に対する保育ニーズ調査の結果について</li> <li>・私立幼稚園に対する認定こども園移行調査の結果について</li> <li>・佐野市保育所整備運営計画 基本方針(案)について</li> <li>・佐野市保育所施設整備計画 基本方針(案)について</li> <li>・「次世代育成支援行動計画」との整合と目標事業量について</li> </ul>
9 会議の概要 (発言の要旨)	別紙のとおり
10 その他	

## 第2回佐野市保育所整備運営計画策定委員会会議録（要旨）

日 時 平成21年12月16日（水）  
午後1時30分～午後3時30分  
場 所 本庁舎第2会議室 AB

出席委員（敬称略）

藤原委員長、小林副委員長、長濱委員、奥村委員、長谷川委員、三浦委員  
大島委員

### 1 開会

### 2 報告事項

#### （1）保育所保護者に対する保育ニーズ調査の結果について

（事務局）

資料1-1、資料1-2により説明

（委員長）

保育の質の向上を希望している保護者の方が多いが、何を望んでいるのか

（事務局）

保育の質については、いろいろあると思うので、これをきっかけに情報収集を行いたいと思う。

（委員）

今回の調査は、保護者から意見を聞いているが、管理者・保育士の意見は聞かないのか

（事務局）

昨年、保育所の管理者（園長）アンケート調査を実施し、今回は利用者のニーズを把握するために実施した。今後は、管理者・保育士からの意見を取り入れながら、整備計画書を作成したい。

（委員）

昨年度作った報告書の5ページに一人あたりの床面積があったが、国の示す最低基準には保育室しか定められていない。事務室・医務室・調理室も含め調査していく必要がある。

（事務局）

今後、施設整備計画を進めていくなかで、佐野市独自の最低基準を検討していく必要がある。ご指摘の件を含めて、調査検討したいと考えている。

## ( 2 ) 私立幼稚園に対する認定こども園移行調査の結果について

( 事務局 )

資料 2 により説明

( 委員 )

認定こども園になった場合、国・県の補助金はだいたいどのくらいでなのか。

( 委員 )

幼保連携型だと国から運営費がでるが、幼稚園型だと認定こども園の看板をもらうだけでなにもない。

( 事務局 )

幼稚園型だと認可外保育施設としての民間育児サービス補助金がでる。

( 委員 )

認定こども園の目的は、待機児童の解消と幼児教育を受けられるということだが、国は何の補助も無くすすめている。幼稚園が教育、保育園は教育をしてないような誤解がされている。保育園は養護と教育をおこなっている。佐野市として、認定こども園がどうあるべきか模索する必要がある。

( 委員 )

幼稚園だから、保育園だからというのではなく、佐野市として、就学前の期間をよりよい環境のもとで、養護と教育が受けられるように考えていくべきであって、幼保の区別なく等しく育つようにすることが認定こども園の目標となっている。

( 事務局 )

認定こども園に対しての支援等は、各委員の意見を参考に検討したい。

( 委員 )

補足するが、待機児童のカウント方法がかわった。以前のカウント方法では待機児童数が 5 ～ 6 万人、途中から認可外が除かれ、2 ～ 3 万人となっている。厚労省の調査だけでは、待機児童の実態に関しては見えない部分がある。

( 委員 )

保護者の立場では病児病後児保育をお願いしたい。

( 委員 )

保育所を設置するうえでの地区割は、ある程度は考えなくてはならないが、エリアを柔軟にすべきと思う。幼稚園は必要ならどこへでも行く。公立保育所でもバスを出してもよいと思う。栃木県幼稚園連合会が取りまとめた平成 21 年 7 月の数字だが、佐野市の 0 歳 ～ 4 歳人口が 5970 人、幼稚園が 1809 人、保育園が 1702 人となっており、残りの児童については、家庭で入りたいと希望しても全部拾うことはできない。

0～1歳児は今後もっと増えていくことが想定される。受入れ体制を考えるべきである。

(委員)

保育所に預けたい・預けないは保護者の選択になるが、働く人が増えれば納税者が増え、市が豊かになる。佐野市の保育園は大変努力してきた。佐野市に保育ニーズがあった。

保育所の新しい施設基準の検討が必要になってくるが、全国社会福祉協議会が平成21年4月にとりまとめた、「機能面に着目した保育所の環境・空間に係る研究事業報告書」のなかで、新しい施設基準等を示しているので参考にしたらどうか。

働く、働かないは保護者の意志・考えがある。保育の質が担保されることで、豊かになる。統廃合については、保護者の意見を十分聞いてもらいながらすすめるものとし、残すべき保育園は残してもらいたい。保育所を頼って子どもを産む家庭があるので慎重に検討してもらいたい。

### 3 議事事項

(1) 佐野市保育所整備計画策定方針(案)について

整備運営計画方針(案)について

目標事業量と「次世代育成支援行動計画後期基本計画」との整合について

(委員長)

議事事項について一括説明を求める。

(事務局)

議事事項の順に資料3、資料4により説明

(委員)

待機児童の解消だけを見ていると、いつになっても解消しない。

(委員)

中山間地域の人口は減っている。土地も安いので是非中山間地域に作ってほしい。若いひとは南へ残りは高齢者になる。それほど距離もない。

少ない収入の中でガソリン代もかかり、大きな支出をしているのが中山間地域だ、環境は良い。中山間地域の保育所は継続運営をしていただきたい。

(委員長)

参考意見としたい。

(事務局)

次回の会議は2月頃を予定している。